

## 連合宮崎青年委員会第1回レクリエーション・学習会

### アジャタとクイズで真剣勝負

連合宮崎青年委員会は、7月15日、宮崎市・北部記念体育館において第1回レクリエーション・学習会を開催しました。

9構成組織53人（うち女性7人）が参加し、8つのグループに分かれ、アジャタ（玉入れ）と労働法クイズにより順位を競いました。体力と知力を駆使し、真剣に取り組むなかで参加者同士の構成組織を超えた交流と、労働法の基礎知識について学習を深めることができました。



総合優勝の8グループ

### 白熱のアジャタ

野崎青年委員会委員長、中川連合宮崎事務局長のあいさつ、アイスブレイクを行った後、真夏の陽射しが照りつけ非常に暑くなった体育館で、8つのグループがアジャタで熱戦を繰り広げました。

今回は、6人で100個のボールをバスケットに入れるゲームを3セット行い、合計タイムで順位を競いました。

ゲームが始まると、経験者にボールの積み方や投げ方のコツを教えてもらい1分台で早々に入れ終わるグループ、それぞれが好きのように投げるグループ、最後の1個（アンカーボール）を入れることに苦戦し制限時間の5分ぎりぎりになるグループもあるなど、グループごとに特色も出ていました。



一秒を競い合ったアジャタ

### 意外に知らない労働法

後半は労働法に関するクイズを青年委員会幹事が劇仕立てで出題し、各グループの正解数を競い合いながら賃金の支払い方法、年次有給休暇、産前産後休暇等、働くうえで必要な知識を学習しました。

骨董品の壺で賃金を払うことは可能か（答：通貨払いの原則に反しできない）、1日の時間外労働のうち1時間未満の端数は何分から請求できるか（答：1分）等、択一式の問題を計10問出題して



話し合いながら回答を考える



劇仕立てで出題する青年委員会幹事

います。参加者は自分の職場の実態も話しながら、グループ内で話し合い、回答を導くことで学習と交流を深めることができました。

6月23日～25日、「連合平和行動 in 沖縄」に参加しました。宮崎からは24名が参加しています。

浦添市で開催された「2017 平和オキナワ集会」では、北海道から現地沖縄まで、総勢1,100人が結集し、講演や式典を通して平和への思いを再確認しました。

フィールドワークで訪れた「ひめゆりの塔・資料館」では、当時の沖縄で大変優秀な女性の集まりであった「ひめゆり学徒」たちが、砲弾の飛び交う過酷な状況下で看護活動を行っていたことを知りました。そんなひめゆり学徒たちが、負傷した兵士の看護をするために使用していた自然洞窟の一つ「糸数壕（アブチラガマ）」も見学しました。壕の中は懐中電灯がないと何も見えないほど真っ暗で、短い時間いるだけでも恐怖を覚えました。ひめゆり学徒の生還者はわずかだそうです。戦争は、兵士たちだけでなく、一般の方、子どもや未来ある若者の命を無残にも奪い去ったということを改めて感じさせられました。



平和オキナワ集会

戦争や平和について、学校の授業等で学ぶ機会は誰にでもあると思います。しかし、今回の平和行動に参加し、自分の目で沖縄戦の傷跡を確認したことで「沖縄のこと」ではなく「自分のこと」として捉えるべきだと思いました。



ひめゆりの塔

沖縄戦の犠牲者は、20万人以上です。数字だけを見ると漠然と「多い」と感じることはできないかもしれませんが、私は、実際に資料館を訪れて、犠牲者一人一人の顔写真やその方の性格について書かれている展示等を見て、それぞれの人生があり、家族があり、誰かにとってかけがえのない存在であったということに気づきました。特に沖縄では、今でも米軍基地の問題等があります。最終日に「道の駅かでな」の屋上から見学した嘉手納基地も、もとは旧日本軍が建設したものだど知り、沖縄の戦争は今も終わっていないと思いました。戦争を経験していない私達だからこそ、平和行動に積極的に参加し、感じたことを周りの人に伝えることを忘れてはならないと感じた3日間でした。

青年委員会幹事 川越 紗苗（労済労連）

## 「アジア・アフリカ支援米」田植え ～宮崎からできる支援～

6月3日、宮崎市跡江の田んぼで行われた「食とみどり・水を守る宮崎県民の会」によるアジア・アフリカ支援米の田植えに連合宮崎青年委員会の川越幹事とともに参加しました。

昨年に続いての参加となりましたが、昨年は事情により田植え作業には参加できなかったため、田植え自体は初参加です。

絶好の田植え日和の下、30人を超える参加者が横一列に並んで後ろ向きに進みながら手植えを行い、1時間位で無事終了しました。参加した子ども達は全身泥んこになりながらも一生懸命植えていました。最近では機械での田植えがほとんどなので、特に子ども達にとっては手植えが体験できる貴重な機会



田植え準備の整った田んぼ

となったと思います。お米を作る大変さをちょっとだけでも知り、このお米がアジアやアフリカの支援に繋がる事を実感してもらい素晴らしい大人になって欲しいなと思います。



田植え終わりの川越幹事

お米は10月に収穫し、アフリカのマリ共和国に送られる予定です。私自身も久しぶりの田植えで、子どもの頃親戚の手伝いに行っていたことを思い出しつつ楽しい時間を過ごす事ができました。7月に転勤で宮崎を離れることとなり、稲刈りには参加できませんが、宮崎のまぶしい日差しの下、元気に力強く育ってくれたらと思います。

青年委員会副委員長 青山 大（情報労連）